

令和3年度八峰町食育推進計画 中間評価に関する概要のお知らせ

この調査は、町の食育を具体的に推進する際に参考にするために実施しています。令和3年度の調査結果をもとに、「第2次八峰みんなの食育プラン」の中間評価を実施しました。この度、調査結果がまとまりましたので、概要をお知らせします。詳しい調査結果は町ホームページにも掲載しています。

1. 調査対象 町内子ども園の保護者84名、町内小学5-6年生73名および中学1-2年生79名
2. 調査実施期間 令和3年8月
3. 回収状況 町内こども園：回答者数 81名、回収率96.4%
小 中 学 生：回答者数144名、回収率94.7%

【分野別中間評価】

- ◎…目標達成
- …H28 2次計画実績値より改善がみられたもの
- △…H28 2次計画実績値とほぼ横ばいであったもの
- ×…H28 2次計画実績値より改善がみられないもの



●分野1. 健やかな食生活（正しい食の知識を持ち、和食の良さを見直し実行しよう）

私たちの食生活は、世の中が便利になる一方で、栄養バランスや生活リズムの乱れを招き、生活習慣病の増加が深刻になっています。

白神の自然に恵まれた豊かな海の幸、山の幸を活かした食生活のよさを見直すとともに、正しい食習慣、知識を身につけ、和食の良さを見直すことを目標としています。

分野	指 標	対 象	2次計画策定時	中間現状値	中間評価	見直し後の目標値	目 標
			H28	R3	達成度	R7	R7
健やかな食生活	朝食を毎日食べる人を増やす	大人	75.3%	70.4%	×	80%	95%
		園児	92.8%	92.6%	△	95%	100%
		児童	94.1%	97.2%	○	98%	100%
		生徒	87.2%	80.8%	×	90%	100%
	3食食べる人を増やす	大人	79.5%	64.2%	×	80%	95%
		園児	91.6%	92.6%	○	95%	95%
	好き嫌いなくバランスよく食べる人を増やす	大人	90.4%	67.9%	×	95%	95%
		園児	62.7%	45.7%	×	70%	80%
自分に合った食事を量を知り、食べる人を増やす	大人	80.7%	88.9%	○	90%	90%	
減塩・薄味を心がける人を増やす	大人	79.5%	80.3%	◎	85%	80%	

保護者の食生活は子どもへも影響するため、保護者世代を中心に栄養バランスに配慮した食生活や、基本的な生活習慣の大切さの理解を深める取組をすすめる必要があります。

●分野2. 食への感謝、食文化の伝承（食に感謝する気持ちを持つ、食文化を伝えよう）

故郷の食文化や技術を伝承していくためには、あらゆる世代で八峰町の食文化に関心を持ち、その素晴らしさを理解することが重要です。これまで食文化や技術を伝承してきた人々に敬意を表し、学び、次の世代へ伝えていくことを目標にします。

食べ物（生命）をいただくという感謝の念を抱き、「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶が、食の基本となります。

分野	指 標	対 象	2次計画策定時	中間現状値	中間評価	見直し後の目標値	目 標	
			H28	R3	達成度	R7	R7	
食への感謝・食文化の伝承	食物を大事にする人を増やす（食べ残しを「もったいない」と思う人を増やす）	大人	86.7%	96.3%	○	97%	100%	
		児童	77.9%	87.4%	○	90%	100%	
		生徒	71.3%	94.5%	○	95%	100%	
	生産や調理に関する人々に感謝の意を表せる人を増やす（「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする人を増やす）	大人	83.1%	86.4%	○	90%	98%	
		園児	88.0%	86.4%	△	90%	100%	
		児童	74.4%	86.0%	○	90%	100%	
	食に関する体験活動をする機会を増やす	園児	100%	100%	◎	100%	100%	
		郷土料理を伝承する人を増やす（郷土料理を作ったり食べたりする人を増やす）	大人	49.4%	23.5%	×	50%	70%
		郷土料理を知っている生徒を増やす	生徒	72.8%	65.8%	×	80%	90%

私たち一人ひとりが食物や生産・調理に関わる人への感謝の気持ちを持ち、日々の生活の中で自分ができることを考え、食べ残しを減らすなど「食品ロスの削減」に向けた取り組みを実践することが大切です。

●分野3. 家族の団らん（みんなで楽しく食事のお手伝いをしよう、家族で楽しく食事をしよう）

子どもは、食卓で家族とともに食べ、会話することで食の楽しさを知ります。食卓が楽しいことは、何よりもご馳走となります。大人は子どもの食に責任をもち、自らがお手本となって、料理の技術や食卓のマナーを伝えることが求められます。

食を通して家族とのふれあいを大切に、基本的なしつけの場となることを目標とします。

分野	指 標	対 象	2次計画策定時	中間現状値	中間評価	見直し後の目標値	目 標
			H28	R3	達成度	R7	R7
家族の団らん	年齢に合った食事のお手伝いができる子どもを増やす	園児	84.3%	85.2%	○	90%	91%
		児童	69.8%	83.1%	◎	85%	80%
		生徒	57.4%	69.9%	○	70%	70%
	団らんの場が自然にしつけの場になっている家庭を増やす	園児 大人	84.3%	95.1%	○	98%	98%
	1日1回は家族で食事をとる人を増やす	園児 大人	65.1%	79.0%	◎	80%	75%

家族がそろって食事をすることは、コミュニケーションがとれ、子どものしつけやマナーを学ぶことにもつながるため、今後も継続した取り組みが必要です。